貴重書
癸未
初春
五渡亭国貞画
前編
山口屋板
百八十七
国
特別
1965
国
24
404

40.8.26
ア306531

# 礫川南嶺作

# 東模様連理

前編

山屋板

勝川春亭画

南嶺

絲井氏入八

おろそかなる仲の町

## 壹之巻

### 自叙

明石潟人麿の櫻ふ拙言ひとのけてハ遅咲の童梅弥生の春長かん事成思ひ。雅波の赤松ふ行末の千年と思ふ鈴鹿山の高談。渋川の水乃蜀ふ孔よりて起りて本曾の深山の草枕と妖む七里ヶ濱の迂坂。長兵衛ヶ助太刀闇ふ迷めく白刃の星月夜化粧坂の遊客ハ見帰て柳ふんこのえてとがちに。後髪引くもおろし。小紫の色あせざして情深さハ白井の屋敷ふ書き紙と沒む。番化禪林のかくれ家も。ふる糸一夜切の髪をものがろうと書綴ると全部六冊と臣伝ふぬ寛見の諸君子。ふ申ほしのふん事と。希しのふ。こそ

文政五壬午季夏稿成

文政六癸未初春販板

礫川牛石邊

南嶺著述

堀このうちや
ゆのれ梅
一本
其角
描藤若大字
若松満祐臣
進藤造酒之進
同藩
本庄典膳娘
八重梅
我恋
細谷川の
ゆるきさら
矢うなさまく
ゆゝ袖ふか
同藩
渋川玄蕃

井戸端ふ
茶筅
あふの
撥ふ
秋色
なれくし
恰度や
春の雨
梅人
同藩
白井左左門後妻
弥生
若松家臣
本庄典膳

虚無僧
長虎
虚無僧を
大名ぶり
おそ次
其角
白井僕
袖平

白井左門
白井
權八
玉葉
あつてもあつても
夜もあつても
命とは何の彩ふ
白井むらん
金王
みちのくん秋と
たのむの鳥とても
常ならぬ
あけがの
幡隨長兵衛
玉屋抱
遊君
小紫

空殿寂莫
薜蘿纏夜
半梵声破
夢時一團
鬼火襲旅
客胸神震
慄轉堪悲
東洲山人
渋川玄蕃
白井後妻弥生

二之巻

つゞき
今さらとぶところん てらはふつだうありければ これ申すをじやとらへと たちよれば田むかしどうろうあり まえし だきけれやさきくなる
ところへじのころ三十ばかりの 町家のめのとおかしきんてなるの 出ちちふそこれもひとりあん されふじとうけやさきくるるが そのかれ花へらんとうけ そるさいゝうとより じのへんふとてらゝてと 父バこの赤坂の へん まで

四百両てうけ出さんと あらきびたいふせり あげくてうくやく 今の五百両ぞてうけ 出させんとふ小ごんまして

◑ぬけがら色して二天寺大げさおに二人を切るおろしぬけがらとこえをかけ
こう四人きられて　一人ふげ　ひるさう　桂光の
こえきでんハ　たれるぞ人　ゆちがひのみ
さちそ　ゆ　ぎやとりつれ　それビなぞん
おのおの　こうれた　けろう　うれた　人ふ去
られ　おとこと　せんてく　ぬぢ沢　の茶や
ふてことば　とろ色ぐ

ひふあそろ　ぎ大ゆあん　とちりひ　用ド
あろろれど　ゆとろ　ぎ　ゆりさぐ　ゆ

ころぐらいくんろこ色しまひしまん
ろあゆやあしくバのろうあし引
ひこてられがあとをつけてえ
かるまれあをされべきこれはず
しあちがくなど五ごろのろべふ
いろ色ぶびゃうくひていそべの松に
のれ　ひる月げすぐさおろよの
ろしどとゆぐろく　ふづけて ☒

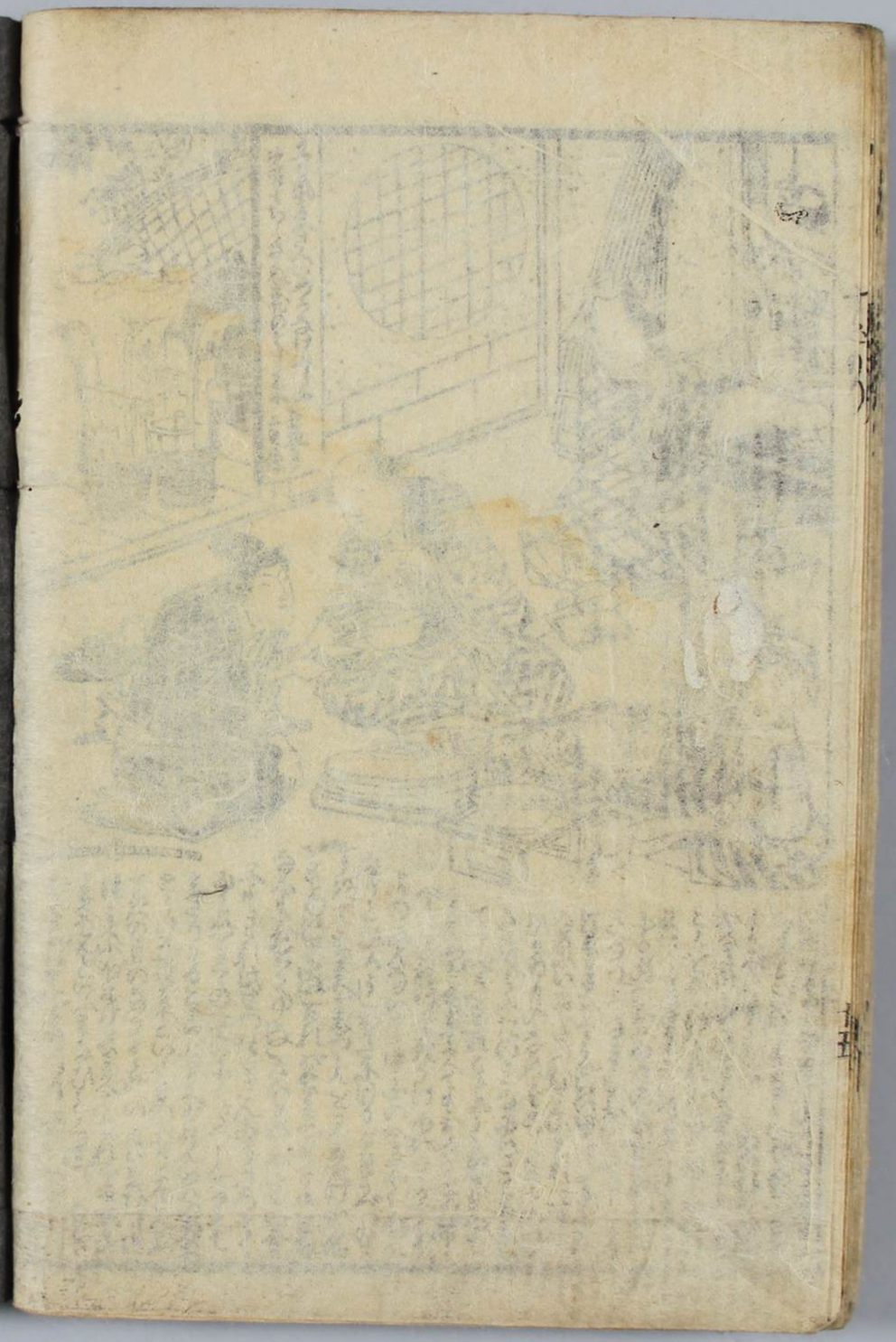
あとふつたよう人
をとろぐひ
ろれてんぐ
どのとあた
さねふかれ
ろされさう
ヨろさ女
のさなさん
ゆろや
ろうくと
ちゃうびすう
桂八ろれと
ろくさてく
ゆとびさ
ゆうもろに
はたのまそ
ろもろふん
ろぐかびけ
色ろれふつに
きてんとろけてれ
ゆゆーろなゆあり
それびけのが
ざんぐふようあや
れあひ　ざれまん
よりてられくろ
ぐひ　ぐそろ
ゆうのまに
もあうるば
ろうどろう

☒ゆくゆぐろのく大の
男五六人あっられ出ておさ
びうとはまとおいてく人
られあとろぐとすぐ
さされぐりものとものハどひぐろの
かさきと切ておしあこのりの
どもいちどふねきつれ切てろるれ
ぶびちがひぐろうのろひとこちら
おーきとあとろうつひて切てろると
こくくもぜどさろむさぐぶもえ人 ◑

つぎ

文庫
243
43

国文
24L
43



文
図書
年度